

ななかまど

一般社団法人 猿払ななかまどの会 会報

令和3年6月1日(火)

第35号

発行：一般社団法人

猿払ななかまどの会 事務局

ななかまどの会は障がい者の社会参加を応援している公益法人です。

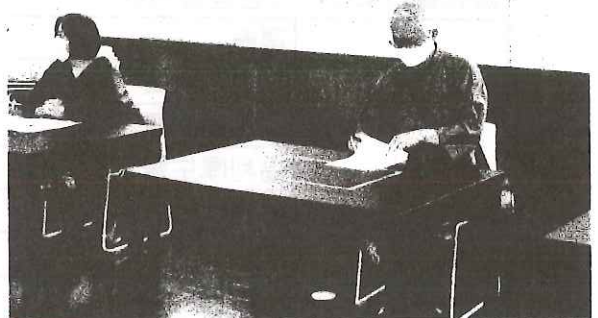
令和3年度社員総会が終わりました



令和3年度
社員総会

5月23日日曜日、コロナ感染症の予防に十分注意しながら一般社団法人猿払ななかまどの会の社員総会が、22名(委任状16)の出席で開催されました。

報告事項では、コロナ感染症の影響で道の駅売店「ななかまど」が出来なかったこと、代わりにパンの注文販売や店頭販売でなんとか障がい者の給料を保障したこと、放課後塾「ななかまど」が軌道に乗り、卒業生を送り出したばかりか現在では不登校児童の支援もしていること、決算報告では68万円の赤字になったこと等が報告されました。



令和3年度の活動計画では、今後2年をめどに多機能型障がいサービス事業所の開設を目指すための準備を進めること、そのための財政的基盤を確保するために販売活動を拡大すること、コロナワクチンが接種され罹患者が落ち着きを見せてきたら道の駅売店「ななかまど」を再開すること等が確認されました。また任期の切れる7名の理事の重任が了承されました。

今年度も村民の皆様には、法人活動に対するご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

放課後塾ななかまどを通して見えてくる

「人間関係力を高めるということ」

「授業は児童と先生の心のキャッチボールだ!」

先月号で児童との信頼関係を損ねる原因を7つほど載せましたが、では信頼関係を築くために大切なことは何でしょうか?キーワードは「共感的」です。

大人もそうでしょうが、子どもはだれからも「認められたがって」います。ですからまず子どもの話を聞くことです。

私は子どもが話を聞いてもらおうと「おか~さん、おか~さん、おか~さん」とか「せんせ~、せんせ~」とか呼び続けている光景をよくみてました。別のことに集中していて耳に届いていないということもあるでしょうが、ほとんどは「無視」です。手が離せられないのであれば「ちょっとまって」と対応すれば子どもも「聞こえていたんだ」と安心します。子どもの話を聞いたうえで「そうなの」とか「え~」とか相槌をうてば、「先生は僕の話聞いてくれる」と信頼してくれるのです。

「授業は正解を求めるのではなく、考えを引き出すことを大切に!」

令和2年度決算書（3部門合計）

一般社団法人 猿払ななかまどの会

科目名		金額(円)
売上総利益		5,238,579
	純売上高	5,635,666
	売上高	1,104,166
	会費	212,000
	受託料	4,280,000
	施設料	39,500
	売上原価	397,087
	期首商品及び製品棚卸高	129,200
	仕入高	387,887
	期末商品及び製品棚卸高	120,000
販売費および一般管理費合計		6,644,652
	運賃	6,250
	広告宣伝費	3,690
	会員交流費	11,000
	福利厚生費	13,200
	給料手当	3,216,000
	雑給	448,427
	法定福利費	487,757
	旅費交通費	0
	通信費	162,042
	消耗品費	515,533
	水道光熱費	1,124,715
	保険料	2,700
	修繕費	117,345
	研修費	6,000
	支払手数料	2,594
	諸会費	7,200
	会議費	0
	租税公課	357,000
	減価償却費	163,199
営業利益		-1,406,073
営業外利益		718,519
	受取利息	19
	雑収入	718,500
経常利益		-687,554
税引前当期純利益		-687,554
当期純利益		-687,554